

平成 29 年 10 月 31 日
課 題 研 究 委 員 会
S S 事 業 部

SSH課題研究研修会要項

- 1 目的 課題研究の現状とその問題点についてグループディスカッションを通して教職員全体の意識を高め、課題研究指導に必要な資質向上と課題研究の充実を図る。
- 2 日時 平成 29 年 11 月 2 日 (木) 職員会議終了後
- 3 場所 会議室
- 4 当日の流れ 司会進行 中村
 - (1) はじめのあいさつ (校長)
 - (2) 課題研究の現状と課題の説明 (成田) 2分
 - (3) グループ内ディスカッション A 11分
「課題研究の問題点」～内容を深めるために必要なことは?～
 - (4) グループ内ディスカッション B 15分
 - (5) まとめ (中村) 2分
 - (6) 終わりのあいさつ (校長)
- 5 その他
 - (1) グループにつきましては、座席表参照
 - (2) グループの班長 (課題研究委員会のメンバー) は司会進行をお願いします。
 - (3) 研修会終了後、短時間ですが SSH 校内運営委員会を実施します。校内委員の先生方は会議室にお残りください。

<研修会の展開>

1 校長あいさつ

2 課題研究の現状と課題の説明（2分 成田）

課題研究の現状（システムはできたが、レベルが低い）を、3年生理型の生徒が作成した典型的なポスターと発表要旨を資料として説明する。

3 グループ内ディスカッション A（11分）

① 「課題研究の問題点」を各グループで議論し、「課題研究の内容を深めるために必要なこと」を何点かにまとめ、用紙に大きく記入する。（8分）

② まとめた用紙をグループ代表が黒板に掲示する。（1分）

※補足が必要なグループがあれば、説明しても良い。

③ 司会者（中村）が簡単に集約し、全体で共有する。（2分）

4 グループ代表による発表 → グループ内ディスカッション B（15分）

① 各グループがディスカッション A であげた「問題点」を解決し、「内容を深めるために必要なこと」を実現するための効果的な「課題研究での仕掛け、取組」のアイデアを出し合って議論する。（12分）

※課題研究の「どんな場面」で「どんな仕掛け・取組」をすると良いか、具体的な議論を行う。

② 「課題研究での仕掛け、取組」を用紙にまとめる。（2分）

③ まとめた用紙をディスカッション A で掲示した用紙の下に掲示する。
（1分）

5 まとめ（中村 2分）

掲示されたものをいくつか読み上げ全体で共有する。

6 校長あいさつ

<当日の写真>



8班問題点

生徒

- 先行研究が少くない、集めてほしい
- 質問の方向性が不明確 (見てほしい)
- (インターネットで)
- グループ人数が多すぎ、教員がサポートしきれない (4-7-7が少なくて)
- テーマ設定が甘い (視野の狭い生徒の教員が狭い)

教員

- 専門外のことは何となくできる
- 専門家の不在
- 教員の負担

学校・システム

- 正しい形がわからない
- 1人の人がやるべきことがわからない
- 準備時間や休憩時間に余裕が限られる

7班解決策

深めるために...

- 集中講義 (今の同じ分野で見る意味も...) (西条のよに夕てき) (西条の展示もして) 発表の()
- 内教員が指導できない... (解) 教員が指導できる
- ゼミ (上田の「筋トレ」野田の「電車と脳」) (興味のある先生が来る) 研究して

8班解決策 4人グループがちょうど良いの? (役割明確)

- 手本となる作品の提示
- 教員から指導して分野の提示
- 通常授業でも課題研究に繋がるような問題提起
- 評価結果(優秀作品)の発表
- 専門家を呼ぶ!! → 教員間情報共有
- <課題発見→仮説→計画→発表> の16-21を重視 (1年次)
- 実験の手順・方法の周知 (1年次)

2班解決策

7Bは7-00で社会目標が設定

1年生 (教員から良いアドバイスを示しあげる)

2年生 (16) プリアー化 (各教科の授業の中で提案する) (担当) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

3年生 (後方から) (中間発表会) (授業発表に準じた) (発表)

S S H課題研究研修会記録

平成29年11月2日

課題研究委員会

S S 事業部

班	問題点	解決案
1	<p>①時間不足</p> <p>②第3者の意見を聞く機会がない。</p> <p>③生徒のモチベーション（が高くない）</p> <p>④目指すべきもの（よい研究）がわからない。</p>	<p>1年次</p> <p>④卒業生の大学での研究（良い研究）を見せる！</p> <p>①③④最初（の1年間）はテーマを用意に充てる。</p> <p>2年次</p> <p>①2年から3年生にかけて研究する（1年半）</p> <p>②中間発表で第3者から指導を受ける。</p> <p>③興味に基づいて班編成 →モチベーションUP！</p>
2	<p>①昨年度の例からやることを決めてしまう。</p> <p>②何が良いものか知らない。</p> <p>③先行（研究）がわからない。ネットで調べたことより先に進めない。</p> <p>④主体性がない。</p> <p>⑤教員側からの提案が今はない。</p>	<p>①②⑤教員から良い研究や課題を示してあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト〇〇で社会に目を向けさせる。 ・各教科の授業の中で専門的な提案をする。 <p>③指導のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任・副担任だけでなく…講座制にする ・教員の専門性を活用する。 <p>④縦のつながり（を活用する）</p> <p>→（課題研究や中間発表会の）授業参観して学ぶ</p>
3	<p>研究内容 ①答えありき</p> <p>生徒の状態</p> <p>②時間不足 ③疑問をもたない ④先行調査不足</p> <p>⑤大枠がない中で手探りでしている。</p> <p>教員 ⑥人手不足</p> <p>⑦課題研究の指導内容を学ぶ機会がない （文理それぞれに合った指導になってない）</p>	<p>①豊総と連動させたらどうか。（大学での研究をテーマ設定のきっかけに）</p> <p>各教員の専門分野をテーマにする。（ただし…広がりには限界が出る…）</p> <p>②時間の確保 ←3年間かけることで解決へ</p> <p>⑤1年生の早いうちに（課題研究の）よい例を示す</p>
4	<p>①ゴールがイメージできない。</p> <p>②前年度と同じ実験を次年度も行っている。</p> <p>③データの数値化、実験器具の使い方が甘い</p> <p>④結果がわかっているものをテーマにしている。</p>	<p>①テーマの結果が何に繋がるかを教員が問う。</p> <p>②④テーマ設定時に大学教授がアドバイスする。 （研究）分野を絞る。学年全体でテーマを共有する。（複数グループで分担して研究）</p>
5	<p>①問題意識がない。身近で素朴な疑問で終わっていて、社会への関わりが薄い。</p> <p>②データ量が少ない。 ③論文まで繋げる。</p> <p>④教員の関わり、（指導法の）具体例がなく、（指導、課題研究の）やり方指導法が見えにくい。</p> <p>⑤教科の内容との関連付け</p> <p>⑥教員の専門性を生かしてない。</p>	<p>（研究の）評価についてわかりやすく説明しておく。</p> <p>①社会に目を向ける機会を増やす。新聞を読みレポートを書かせる。テーマ設定にもっと指導を入れる。</p> <p>②パソコン、タブレット、図書館などの環境整備 外部施設の利用を促す。</p> <p>③中間発表をさせる。</p> <p>④（課題研究ノートのように）手順、学校独自のものをつくる。（生徒、研究全体の）計画性をもたせる。</p> <p>⑥豊西総合大学の豊西教員版を立ち上げる。 教員の指導できる内容を示しておく。</p>

6	<p>①前年度の反省や考察を踏襲していない。 ②取り組み期間が分散している。 ③班員の意識に差がある。</p>	<p>①似たテーマの良い研究・悪い研究を比較して示す。 前年度の研究の反省や考察を引き継いで深める。 専門家を訪ねる機会を設ける。外部に広げる。 ②夏休みなど期間を集中させる。週1はやめる。 ③2、3年同じグループが良い。良い人間関係を。</p>
7	<p>テーマ設定 ①高度なもの⇔低レベル の2極化 ②先輩から引き継げないのか。 ③グループ内での関心の格差 ④教員が専門外のことを指導しきれない。</p>	<p>①③夏休みを活用して集中的に講義・研究する。 ②西祭のようにタテ割りで研究、西祭の展示で発表 ④教員が指導できる「ゼミ」をつくる！ 例) 上田ゼミ「筋肥大」野田ゼミ「電車と脳だ」 興味のある生徒が集まり研究していく。</p>
8	<p>生徒側 ①先行研究を調べていない。調べ方を知らない。 ②グループで数人サボっている。リーダーも少ない。 ③テーマ設定が甘い（視野・認識する世界の狭さ） 教員 ④専門外のことは何も言えない。 ⑤（授業外で調べたりなど）教員の負担が大きい。 ⑥学校内に（指導できる）専門家がない。 学校・システム ⑦正しい形が分からない。 ⑧他の教員のやっていること（指導）が分からない ⑨機器・時間の不足により、できることが限られる</p>	<p>①手本となる作品の提示 ②4人グループでよい。役割の明確化が必要 評価結果（優秀作品）の発表 ③通常授業でも課題研究に繋がるような問題提起を ⑥専門家を呼ぶ！ ⑦（課題発見→仮説→計画→考察）実験の手順・方法の周知とトレーニングを1年次に重ねる。 ⑧（専門家やベテランの指導を）教員間で情報共有</p>
9	<p>①課題研究の目標が不明確、動機が乏しい。 何のために研究したのかわかっていない。 どういう内容が課題研究にふさわしいか、深めるとはどういうことか、はっきりしない。 今後の学びに繋がる内容になっていない。 ②研究の方法に問題がある。…仮説の立て方、先行研究、授業とのつながりが弱い。 研究のための研究になっている。広がりがない。 先行調査が少ない。ポスターの内容がうすい。 ③課題研究にあてる時間がまだまだ少ない。</p>	<p>①テーマが決まらないグループには教員からテーマを与える。テーマ設定にもっと時間をかける。 遠足を自然・科学に関する場所にする。 修学旅行で他県のSSH校と交流する。 遠足、修学旅行などに関連したテーマを求める。 先輩からテーマを引き継ぐ。他校の例も参考に。 （良い研究は）何年もかけて。 ②教員（理科）が途中でもっと口を出す。 仮説はきちんと設定する。「〇〇ならば、△△なるだろう。」仮説がうまくいけば8割成功。 学年関係なくテーマ設定などの指導を全職員で行う。割り当てる。 昨年度の研究要旨集を教室の置く。 はじめに社会的課題をイメージさせて、その解決のため、理科の内容が活用できないか考えさせる。 モデル研究を復習（再現）する。 ③長期休みに「深い目的と仮説」を宿題として出す。 2年間でまとめる研究もありに。</p>